

研究資料

## ウメ 第2回系統適応性検定試験の概要

八重垣英明・山口正己<sup>†1</sup>・土師岳<sup>†2</sup>・末貞佑子・  
安達栄介<sup>†3</sup>・鈴木勝征<sup>†4</sup>・内田誠<sup>†4</sup>

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
果樹研究所品種育成・病害虫研究領域  
305-8605 茨城県つくば市

## Summary of the 2nd Japanese Apricot National Trial

Hideaki YAEGAKI, Masami YAMAGUCHI, Takashi HAJI, Yuko SUESADA, Eisuke ADACHI,  
Katsuyuki SUZUKI and Makoto UCHIDA

Breeding and Pest Management Division, Institute of Fruit Tree Science,  
National Agriculture and Food Research Organization  
Tsukuba, Ibaraki 305-8605, Japan

### Summary

The 2nd Japanese apricot National Trial was conducted at 15 experimental stations from 1999 to 2008, using four Japanese apricot selections, Ume Tsukuba 7, 8, 9 and 10, selected at the National Institute of Fruit Tree Science (NIFTS) of Japan. Ume Tsukuba 7 was designated as cultivar 'Suiko' because its fruits are large and fruit liquor and juice extracted by osmosis of sugar solution possess an excellent taste. Ume Tsukuba 8 was judged to be unsuitable for cultivar designation because of lower productivity than 'Nankou'. Ume Tsukuba 9 also was judged unsuitable because of lower productivity than 'Orihime'. Ume Tsukuba 10 was designated as cultivar 'Tsuyukane' because of its red fruit skin and flesh color and because of the excellent taste of its fruit liquor and juice extracted by osmosis of sugar solution are excellent taste.

**Key words:** fruit breeding, fruit liquor, gumming fruit, Japanese apricot

---

(2012年5月31日受付・2012年8月6日受理)

<sup>†1</sup> 現 東京農業大学 神奈川県厚木市

<sup>†2</sup> 現 独立行政法人農業生物資源研究所遺伝資源センター放射線育種場 茨城県常陸大宮市

<sup>†3</sup> 現 山形県農業総合研究センター園芸試験場 山形県寒河江市

<sup>†4</sup> 元 果樹研究所企画管理部

## 緒 言

農林水産省の果樹生産出荷統計によると平成23年度のウメの栽培面積は16,600 ha, 出荷量は92,700 tである。このうち栽培面積の約1/3を‘南高’が占めている。‘南高’は大果であり、一定の熟度が過ぎても、果肉内に樹脂状の多糖類が蓄積するヤニ果の発生が少ないことから、完熟果を用いた梅干し製品の人気が高い。梅酒および梅ジュース用としては‘鶯宿’や‘古城’など完熟するとヤニ果が多発する品種の完熟前収穫果が青梅と称されて主に利用されている。

近年ウメは、出荷量が10万tを超える年が続くと、市場価格が低迷する傾向にある。価格を維持するためには、消費拡大が必要であり、既存の品種とは異なる色や香りなどの特性のある新品種が求められている。

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所では1970年よりウメの交雑育種を開始し、1983年より6系統を供試して開始したウメ第1回系統適応性検定試験で、‘南高’より収穫期が早く、大果の‘加賀地蔵’（山口ら、2002）と自家和合性で寒冷地でも結実の安定する‘八郎’（山口ら、2002）が品種登録されている。さらに新品種を育成するために交雑を行い、得られた466実生の中から選抜された4系統について、1999年より全国15の公立試験研究機関の協力のもとウメ第2回系統適応性検定試験を行ってきたが、2008年度をもって試験を終了したのに伴い、試験の経過と供試系統の特性評価の概要を報告する。

## 謝 辞

本試験の実施に当たり、担当された関係公立試験研究機関の各位並びに、実生育成、特性調査などにご協力頂いた当所の歴代職員、研修生諸氏に心から謝意を表します。

### ウメ第2回系統適応性検定試験参加場所

当所以外にウメ第2回系統適応性検定試験を実施した場所は以下の通りである。（名称は2009年3月現在）。宮城県農業・園芸総合研究所、秋田県農林水産技術センター果樹試験場天王分場、栃木県農業試験場、群馬県農業技術センター、埼玉県農林総合研究センター園芸研究所、神奈川県農業技術センター、長野県南信農業試験場、石川県農業総合研究センター、福井県園芸試

験場、和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場うめ研究所、鳥取県農林総合研究所園芸試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター果樹研究所県北分場、愛媛県農林水産研究所果樹研究センターおよび愛媛県南予地方局産業振興課地域農業室鬼北農業指導班、宮崎県総合農業試験場。なお、長野県南信農業試験場は2003年に、秋田県農林水産技術センター果樹試験場天王分場は2005年に、神奈川県農業技術センターおよび愛媛県南予地方局産業振興課地域農業室鬼北農業指導班は2006年に試験を中止した。

### ウメ第2回系統適応性検定試験担当者

当所におけるウメ第2回系統適応性検定試験の担当者および担当期間は以下の通りである。

山口正己（1999～2009）、土師岳（1999～2005）、八重垣英明（1999～2008）、鈴木勝征（1999～2004）、末貞佑子（2004～2009）、内田 誠（2004～2006）、安達栄介（2008～2009）。

## 検討の結果

各供試系統の個体番号、交雑組合せおよび検討結果を第1表に、花の特性を第2表に示した。調査方法については育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法（農林水産省果樹試験場、1994；独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所、2007）のウメ調査方法に基づき実施した。また系統適応性検定試験における評価の概要は以下の通りである。

### 1. 「ウメ筑波7号」

果皮に光沢があり外観が綺麗でヤニ果の発生が少ない青梅出荷用系統として供試された。検討の結果、ヤニ果の発生は‘白加賀’よりも少なく、‘南高’よりは多くなるものの、滴定酸度が高く、完熟果は香りが強く、梅酒や梅ジュースに加工すると独特の芳香があることから、平成20年度落葉果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会（落葉果樹）において新品種候補にふさわしいとの合意がなされ、平成20年度果樹試験研究推進会議において新品種候補とすることが決定された。平成23年3月18日に‘翠香’として品種登録された（登録番号20721号）（安達ら、2010）。

### 2. 「ウメ筑波8号」

大果でヤニ果の少ない系統として供試された。2006

年と2007年の各場所の成績を第3, 4表に示した。数値化できる6形質について、本系統と対照2品種の値が揃っている場所の値を用いて、品種と場所を要因とする2元配置の分散分析を行い第5表に示した。月日で表される形質については1月1日からの日数により数値化して解析した。

樹性：樹姿は「中」の評価が最も多かったが、「開」および「やや開」とする場所も多かった。樹勢は「中」、短果枝の着生は「南高」の評価より少ない評価とする場所が多かった。開花盛期の平均は「南高」と同時期で、「白加賀」よりも6日早い。収穫盛期の平均は「白加賀」よりも5日遅く、「南高」と同時期である。

果実：果形は「円」または「短楕円」と評価した場所が同数で、玉揃いは「良」と評価した場所が最も多かった。ヤニ果の発生は「無」と評価した場所が最も多かった。果実重は平均では36.2 gで、「南高」より有意ではないが2.5 g大きく、「白加賀」より7 g大きい。石川県で「南高」よりも18 gあまり小さかったが、これは供試樹にコスカシバの被害があったことが影響している可能性がある。酸度および核重率はそれぞれ5.75%と10.2%で対照品種とは有意差が認められなかった。収量は樹齢が同一ではなく有意差が認められなかったが、対照品種よりも少ない傾向であった。

以上、大果でヤニ果の発生は少ないものの、果実重は「南高」と同程度で収穫期も重なること、雄性不稔性で「南高」や「白加賀」の受粉樹にならないこと、短果枝の着生が「南高」よりも少ないため、収量も高くないことなどの理由から本系統は2007年で中止と判断された。

### 3. 「ウメ筑波9号」

果実重が10 g程度までのウメは小ウメと分類される(土方, 1984; 吉田・京谷, 1971)。小ウメは食べやすい大きさの梅干し原料として利用されるが、果実が小さいことから収量が低い。本系統は、自家和合性で、小ウメとしては果実が大きく、樹上で黄色に熟する系統として供試された。2004年と2005年の各場所の成績を第6, 7表に示した。数値化できる形質についてはウメ筑波8号と同様な解析を行い、第8表に示した。

樹性：樹姿は「やや直」または「直」、樹勢は「強」、短果枝の着生は「中」と評価した場所が多かった。開花盛期の平均は「織姫」と同じ3月15日で、収穫盛期の平均は有意ではないが「織姫」より1日遅い6月7日で、ウメとしては早い。

果実：果形は「円」、玉揃いは「良」または「やや良」、果皮の地色は「黄」と評価する場所が多かった。果実重は平均では11.4 gで「織姫」よりも2.2 g大きかった。酸度と核重率は「織姫」よりも有意に低かった。収量は樹齢が同一ではなく、有意差も認められなかったが、「織姫」よりも少ない傾向にあった。

以上、親である「織姫」と同じく果皮の地色が黄色になるまで樹上で熟することができ、果実は「織姫」よりもやや大きいものの、収量が少ないことと「織姫」との区別性が少ないことなどの理由から本系統は2005年度で中止と判断された。

### 4. 「ウメ筑波10号」

果皮と果肉が赤い、ニホンスモモとウメの雑種系統として供試された。検討の結果、果実が大きく、果皮全面に着色し、成熟に伴い果肉も鮮紅色に着色すると

第1表 ウメ第2回系適応性検定試験供試系統の概要および検討結果

系統名	個体番号	交雑組合せ		結果
ウメ筑波7号	MM-32-19	月世界	× 梅郷	2011年3月18日品種登録
ウメ筑波8号	MM-35-1	白加賀	× ウメ筑波4号	2007年度で試験中止
ウメ筑波9号	MM-40-22	織姫	× 織姫	2005年度で試験中止
ウメ筑波10号	PM-10-5	笠原巴旦杏	× 養青梅	2009年2月26日品種登録

第2表 ウメ第2回系適応性検定試験供試系統の花の特性

系統名	花卉の色	花形	花粉の量	花粉の発芽能力	自家和合性
ウメ筑波7号	白	一重	多	有	無
ウメ筑波8号	白	一重	微	無	無
ウメ筑波9号	白	一重	多	有	有
ウメ筑波10号	白	一重	微	無	無

第3表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波8号の樹性および果実特性

(2006, 2007年の平均)

場所	系統 品種	樹齢	樹姿 <sup>z</sup>	樹勢 <sup>y</sup>	短果枝 の着生 <sup>x</sup>	果形 <sup>w</sup>	玉揃い <sup>v</sup>	果皮		果肉色 <sup>s</sup>	ヤニ果 <sup>t</sup>
								地色 <sup>u</sup>	着色 <sup>t</sup>		
宮城	ウメ筑波8号	9	やや開張	中	やや多	短楕円	良	淡緑	中	淡緑黄	無
	南高	9	開張	やや弱	中	短楕円	やや良	淡緑	中	淡緑黄	無
	白加賀	9	中間	中	多	短楕円	良	緑	少	淡緑黄	無
つくば	ウメ筑波8号	9	中間	中	やや少	円	やや良	緑白	やや少	淡緑黄	微
	南高	14	やや開張	強	やや多	短楕円	やや良	淡黄緑	やや少	淡緑	無
	白加賀	14	中間	強	やや少	短楕円	やや良	緑	微	淡緑	中
栃木	ウメ筑波8号	8	中間	やや強	やや多	円	良	—	微	淡緑	微
	南高	8	やや開張	やや強	やや多	円	やや良	—	少	淡緑	微
	白加賀	8	やや開張	強	やや多	円	やや良	—	無	淡緑	中
群馬	ウメ筑波8号	9	開張	中	やや少	楕円	やや良	緑	微	淡緑黄	無
	南高	11	中間	中	多	短楕円	やや良	淡緑	中	淡緑	無
	白加賀	19	開張	やや強	中	楕円	やや良	緑	微	淡緑	中
埼玉	ウメ筑波8号	9	やや開張	強	少	短楕円～円	良	緑	無	緑	無
	南高	10	開張	中	やや多	短楕円～円	中	淡緑	やや少	緑	微
	白加賀	10	開張	強	やや少	短楕円	中	緑	無	緑	微
神奈川 <sup>f</sup>	ウメ筑波8号	4	やや開張	強	中	豊円	良	緑	無	淡緑	無
	南高	15	やや開張	中	やや多	短楕円	やや良	緑	中	淡緑	微
	白加賀	12	やや開張	強	中	楕円	やや良	緑	微	淡緑	中～少
石川	ウメ筑波8号	9	直	中	やや少	短楕円	やや良	緑	少	淡緑	少
	南高	14	やや開張	中	多	短楕円	良	淡緑黄	中	淡緑黄	無
福井	ウメ筑波8号	8	やや開張	強	少	短楕円	良	淡緑	微	緑	中
	白加賀	8	やや開張	強	中	短楕円	中	淡緑	無	淡緑	中
和歌山	ウメ筑波8号	9	中間	中	中	円	やや良	淡緑	少	淡緑	—
	南高	9	中間	中	中	短楕円	やや良	淡緑	やや少	淡緑	—
	白加賀	5	中間	中	中	短楕円	中	緑	無	淡緑	—
鳥取	ウメ筑波8号	9	開張	中	中	短楕円	良	淡緑黄	中	淡緑黄	微
	南高	9	開張	中	中	短楕円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	中
徳島	ウメ筑波8号	8	中間	中	少	短楕円	良	緑	中	淡緑	無
	南高	6	開張	中	中	短楕円	やや不良	淡緑	中	淡緑	無
	白加賀	6	開張	中	中	短楕円	やや不良	緑	微	淡緑黄	少
愛媛	ウメ筑波8号	9	中間	中	中	円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
	南高	9	中間	中	やや多	短楕円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
	白加賀	9	中間	強	中	短楕円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
愛媛 <sup>r</sup> (鬼北)	ウメ筑波8号	9	中間	中	中	短楕円	中	緑	無	緑	無
	南高	9	開張	中	中	短楕円	中	淡緑	中	緑	無
	白加賀	9	中間	強	中	楕円	良	緑	無	濃緑	無
宮崎	ウメ筑波8号	高8	開張	強	やや少	円	やや良	淡緑	やや少	黄	少
	南高	高8	開張	中	多	短楕円	やや良	淡緑	中	淡緑	無
	白加賀	高8	開張	やや強	やや少	短楕円	中	淡緑	微	淡緑	無

<sup>z</sup> 直立, やや直立, 中間, やや開張, 開張, 枝垂れの6段階で評価<sup>y</sup> 強, やや強, 中, やや弱, 弱の5段階で評価<sup>x</sup> 多, やや多, 中, やや少, 少の5段階で評価<sup>w</sup> 扁円, 円, 短楕円, 楕円, 卵の5段階で評価<sup>v</sup> 良, やや良, 中, やや不良, 不良の5段階で評価<sup>u</sup> 黄, 淡緑黄, 淡緑, 緑の4段階で評価<sup>t</sup> 多, やや多, 中, やや少, 少, 微, 無の7段階で評価<sup>s</sup> 黄, 淡緑黄, 淡緑, 緑, 濃緑, 赤の6段階で評価<sup>r</sup> 2006年のみの成績

第4表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波8号の開花期、収穫期および果実品質(2006, 2007年の平均)

場所	系統・品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
宮城	ウメ筑波8号	4月7日	7月15日	33.1	5.30	9.6	62.8
	南高	4月6日	7月15日	30.6	5.45	12.6	—
	白加賀	4月8日	7月15日	32.2	6.55	9.0	—
つくば	ウメ筑波8号	3月11日	6月29日	35.8	6.91	7.4	17.5
	南高	3月9日	7月3日	41.8	6.57	8.3	56.3
	白加賀	3月15日	6月27日	37.9	6.62	7.1	—
栃木	ウメ筑波8号	3月16日	7月2日	33.8	4.65	14.6	6.4
	南高	3月17日	6月29日	36.3	5.30	16.7	19.6
	白加賀	3月19日	6月23日	27.5	5.10	15.5	12.5
群馬	ウメ筑波8号	3月5日	7月3日	35.2	—	8.9	6.6
	南高	3月2日	7月6日	31.0	—	9.8	70.1
	白加賀	3月9日	6月20日	28.1	—	10.2	22.7
埼玉	ウメ筑波8号	3月1日	6月14日	38.8	—	11.1	10.1
	南高	3月10日	6月17日	33.2	—	9.3	10.0
	白加賀	3月12日	6月6日	28.7	—	11.0	13.1
神奈川 <sup>2</sup>	ウメ筑波8号	3月6日	6月28日	33.1	—	9.6	—
	南高	3月2日	6月28日	28.2	—	11.6	—
	白加賀	3月13日	6月12日	26.5	—	11.1	—
石川	ウメ筑波8号	3月18日	6月23日	24.6	—	15.0	—
	南高	3月15日	6月27日	43.4	—	7.2	—
福井	ウメ筑波8号	3月10日	6月30日	35.0	4.83	9.2	2.6
	白加賀	—	—	34.3	5.12	7.7	—
和歌山	ウメ筑波8号	2月18日	6月10日	34.8	5.08	13.5	0.1
	南高	2月17日	6月15日	38.3	5.31	10.3	9.5
	白加賀	3月2日	6月4日	22.7	4.60	12.4	1.0
鳥取	ウメ筑波8号	3月10日	6月24日	46.6	—	7.3	13.1
	南高	3月11日	6月24日	43.0	—	7.7	39.1
徳島	ウメ筑波8号	2月24日	6月16日	34.1	6.70	9.6	32.4
	南高	2月26日	6月16日	31.0	6.40	10.4	38.9
	白加賀	3月2日	6月15日	26.5	6.35	9.9	19.0
愛媛	ウメ筑波8号	3月1日	6月24日	46.8	5.26	9.0	16.5
	南高	3月1日	6月24日	48.3	5.54	10.4	17.8
	白加賀	3月1日	6月24日	43.0	5.37	11.0	17.0
愛媛 <sup>2</sup> (鬼北)	ウメ筑波8号	2月25日	6月8日	23.5	5.23	10.4	—
	南高	2月25日	6月8日	21.9	5.49	10.0	—
	白加賀	3月8日	6月8日	22.2	5.51	11.8	—
宮崎	ウメ筑波8号	2月18日	6月6日	49.4	6.97	8.5	0.6
	南高	2月16日	5月30日	29.2	6.45	10.5	0.3
	白加賀	2月20日	6月4日	26.1	5.99	6.8	-

<sup>2</sup> 2006年のみの成績



判定され、付加価値の高い梅酒加工に適することから、平成18年度果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会（落葉果樹）において新品種にふさわしいとの合意が得られ、平成18年度果樹試験研究推進会議において新品種候補とすることが決定された。2007年11月に‘露茜’と命名して種苗法による品種登録出願を行い、2009年2月26日に品種登録された（登録番号17561号）。また、

2011年3月に優良農作物「うめ農林3号」として農林認定された（八重垣ら，2012）。

### まとめ

今回のウメ第2回系統適応性検定試験において4系統を供試したところ2系統が命名登録となり、2系統が試

第5表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波8号の開花期、収穫期および果実品質の平均値と対照品種との比較（2006-2007）

系統・品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
ウメ筑波8号	3月4日 <sup>az</sup>	6月22日 <sup>b</sup>	36.2 <sup>b</sup>	5.75	10.2	12.0
南高	3月4日 <sup>a</sup>	6月22日 <sup>b</sup>	33.7 <sup>b</sup>	5.81	10.8	27.6
白加賀	3月10日 <sup>b</sup>	6月17日 <sup>a</sup>	29.2 <sup>a</sup>	5.75	10.5	14.2
有意差 <sup>y</sup>						
品種間	**	**	**	NS	NS	NS
場所間	**	**	**	**	**	NS

<sup>z</sup>異なる符号間で1%水準で有意差有り

<sup>y</sup>\*\*, NS 分散分析で1%水準で有意差有り, 有意差無し

第6表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波9号の樹性および果実特性<sup>z</sup>

(2004, 2005年の平均)

場所	系統・品種	樹齢	樹姿	樹勢	短果枝の着生	果形	玉揃い	果皮		果肉色	ヤニ果
								地色	着色		
宮城	ウメ筑波9号	7	やや開張	強	多	円	良	黄	やや少	黄	無
	織姫	7	直立	強	中	円	良	黄	やや少	黄	無
秋田 <sup>y</sup>	ウメ筑波9号	5	やや直立	やや強	中	円	良	黄	黄	黄	無
	織姫	5	やや直立	やや強	中	円	やや良	淡緑黄	中	黄	無
つくば	ウメ筑波9号	13	直立	強	中	円	中	黄	少	黄	無
	織姫	7	中間	強	やや多	円	中	黄	やや少	黄	無
栃木	ウメ筑波9号	6	やや直立	中	やや少	楕円	中	—	無	淡緑黄	無
	織姫	6	やや開	中	中	円	やや良	—	微	淡緑黄	無
埼玉	ウメ筑波9号	7	直立	中	やや少	円	良	淡緑黄	微	淡緑黄	無
	織姫	7	開張	やや強	中	円	中	淡緑黄	微	淡緑黄	無
神奈川	ウメ筑波9号	高4	やや開	強	中	円	やや良	黄	微	黄	無
	織姫	高4	やや開	強	やや少	円	やや良	黄	微	黄	無
福井	ウメ筑波9号	6	やや直立	強	少	短楕円	中	淡緑黄	無	淡緑黄	無
	織姫	11	やや直立	強	少	短楕円	良	淡緑黄	無	淡緑黄	無
和歌山	ウメ筑波9号	7	直立	強	中	円	やや良	黄	少	黄	無
	織姫	7	直立	強	中	円	やや良	黄	少	黄	無
鳥取 <sup>x</sup>	ウメ筑波9号	7	やや直立	やや強	やや少	楕円	やや良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
徳島	ウメ筑波9号	6	直立	強	少	円~短楕円	やや良	淡緑黄	少	黄	無
愛媛	ウメ筑波9号	7	やや直立	強	中	円	良	黄	微	黄	無
	織姫	7	中間	中	やや多	円	良	黄	微	黄	無

<sup>z</sup>評価基準は第3表と同じ

<sup>y</sup>2004年のみの成績

<sup>x</sup>2005年のみの成績

験中止となった。試験中止となった2系統は果実形質ではなく、収量が少ないこと、雄性不稔性のため‘南高’などの受粉樹にならないことなどの栽培性が問題となった。命名登録となった‘露茜’も雄性不稔性であり、開花期がウメの主要品種よりも遅いなどの栽培性の問題点はあるものの、果皮および果肉が赤くなるという他のウメ品種にない果実形質が評価された。

今後のウメ育種においては、特徴のある果実形質を持ち、栽培性に欠点のない系統を選抜していく必要がある。基本的には収量性が高いことが求められ、その

ためには自家和合性を持つこと、少なくとも花粉稔性を持ち‘南高’の受粉樹として使えることが必須である。また、収穫労力の分散のためには‘南高’よりも早生であることが望まれる。

### 摘 要

1. ウメ第2回系適応性検定試験は「ウメ筑波7号」から「ウメ筑波10号」までの4系統を供試し、全国15の公立試験研究機関の参加により1999年か

第7表 系統性検定試験におけるウメ筑波9号の開花期、収穫期および果実品質（2004, 2005年の平均）

場所	系統 品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
宮城	ウメ筑波9号	4月1日	6月18日	9.4	7.10	10.0	16.5
	織姫	4月1日	6月18日	7.3	7.30	11.5	25.1
秋田 <sup>z</sup>	ウメ筑波9号	4月13日	7月5日	14.8	3.70	8.1	2.4
	織姫	4月13日	6月25日	8.7	3.90	13.3	20.4
つくば	ウメ筑波9号	3月10日	6月11日	14.5	4.73	6.7	-
	織姫	3月11日	6月13日	13.9	4.64	6.7	-
栃木	ウメ筑波9号	3月21日	6月3日	7.0	3.85	17.3	0.1
	織姫	3月20日	6月3日	6.4	3.95	21.0	3.9
埼玉	ウメ筑波9号	3月13日	5月28日	7.9	—	12.8	11.0
	織姫	3月4日	5月28日	5.4	—	16.6	44.7
神奈川	ウメ筑波9号	3月3日	5月26日	8.8	—	11.4	5.2
	織姫	3月6日	5月26日	8.1	—	12.9	8.4
福井	ウメ筑波9号	3月17日	6月15日	19.0	3.95	7.6	0.3
	織姫	3月19日	6月14日	15.7	4.00	7.8	1.0
和歌山	ウメ筑波9号	2月21日	5月22日	9.1	4.94	—	1.6
	織姫	2月23日	5月22日	7.7	5.01	—	0.9
鳥取 <sup>y</sup>	ウメ筑波9号	3月20日	6月10日	12.3	—	10.4	0.1
徳島	ウメ筑波9号	2月28日	5月19日	6.6	4.20	16.6	3.1
愛媛	ウメ筑波9号	3月2日	6月5日	12.9	4.42	7.6	19.6
	織姫	3月5日	6月3日	9.8	4.47	8.5	4.7

<sup>z</sup> 2004年のみの成績

<sup>y</sup> 2005年のみの成績

第8表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波9号の開花期、収穫期および果実品質の平均値と対照品種との比較（2005-2006）

系統 品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
ウメ筑波9号	3月15日	6月7日	11.4 <sup>b</sup>	4.66 <sup>a</sup>	10.2 <sup>a</sup>	7.1
織姫	3月15日	6月6日	9.2 <sup>a</sup>	4.75 <sup>b</sup>	12.3 <sup>b</sup>	13.6
有意差 <sup>z</sup>						
品種間	NS	NS	**	**	**	NS
場所間	**	**	**	**	**	NS

<sup>z</sup> \*\*, NS: 分散分析で1%水準で有意差有り, 有意差無し

ら2008年まで実施された。

2. 「ウメ筑波7号」はヤニ果の発生があるものの、滴定酸度が高く、完熟果は香りが強くなり、梅酒や梅ジュースに加工すると独特の芳香があることから、平成23年3月18日に‘翠香’として品種登録された。
  3. 「ウメ筑波8号」は大果でヤニ果の発生は少ないものの、果実重は‘南高’と同程度で収穫期も重なり、雄性不稔性で‘南高’などの受粉樹にならず、短果枝の着生が‘南高’よりも少ないため、収量も高くないことなどの理由から本系統は2007年で中止と判断された。
  4. 「ウメ筑波9号」は‘織姫’と同じく果皮の地色が黄色になるまで樹上で熟することができ、果実は‘織姫’よりもやや大きいものの、収量が少ないことと‘織姫’との区別性が少ないことなどの理由から本系統は2005年度で中止と判断された。
  5. 「ウメ筑波10号」は果実が大きく、果皮全面に着色し、成熟に伴い果肉も鮮紅色に着色すると判定され、付加価値の高い梅酒加工に適することから‘露茜’と命名され、2009年2月26日に品種登録された。また、2011年3月に優良農作物「うめ農林3号」として認定された。
- 引用文献
- 1) 安達栄介・末貞佑子・山口正己・土師岳・八重垣英明・三宅正則・中村ゆり. 2010. ウメ新品種‘翠香’. 園学研. 9(別1): 303.
  - 2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所. 2007. 育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法. pp.233.
  - 3) 土方 智. 1984. ウメ基礎編. 品種生態と栽培. p.29-42. 農業技術体系・果樹編6(モモ・ウメ・スモモ・アンズ). 農文協. 東京.
  - 4) 農林水産省果樹試験場. 1994. 育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法. pp.195.
  - 5) 八重垣英明・山口正己・土師岳・末貞佑子・三宅正則・木原武士・鈴木勝征・内田誠. 2012. ウメ新品種‘露茜’. 果樹研報. 13: 1-6.
  - 6) 山口正己・京谷英壽・吉田雅夫・土師岳・西村幸一・中村ゆり・三宅正則・八重垣英明・西田光夫・垣内典夫・田中敬一・大宮あけみ・石川祐子・小園照雄・木原武士・鈴木勝征・福田博之・朝倉利員. 2002. ウメ新品種‘加賀地蔵’. 果樹研報. 1: 23-33.
  - 7) 山口正己・京谷英壽・吉田雅夫・土師岳・西村幸一・中村ゆり・三宅正則・八重垣英明・西田光夫・垣内典夫・田中敬一・大宮あけみ・石川祐子・小園照雄・木原武士・鈴木勝征・福田博之・朝倉利員. 2002. ウメ新品種‘八郎’. 果樹研報. 1: 35-46.
  - 8) 吉田雅夫・京谷英壽. 1971. ウメ・アンズ栽培品種の分類(第1報)形態的 분류. 園学要旨. 昭46春: 12-13.



## 原著論文一覽

(2012.3-2013.1)

著者名	掲載誌名	巻・号 ページ 発行年	オンラ イン 公表日	論文表題名
Hoytaek Kim(現茨城農 セ), 寺上伸吾, 西谷千佳 子, Kanako Kurita (STAFF), Hiroyuki Kanamori(STAFF), Yuichi Katayose(生物研), 澤村豊, 齋藤寿広, 山本 俊哉	Breeding Science	62巻 53-62 2012.3		Development of cultivar-specific DNA markers based on retrotransposon-based insertional polymorphism in Japanese pear
佐藤幸恵(農環研), 望月 雅俊, 望月淳(農環研)	JARQ	46巻2号 129-137 2012.4		Introduction of non-native predatory mites for pest control and its risk assessment in Japan
岩波宏, 森谷茂樹, 古藤 田信博, 耳田直純(果樹 研), 高橋(住吉), 佐栄(退 職), 阿部和幸	Plant Breeding	131巻 322-328 2012.4		Mode of inheritance in fruit acidity in apple analysed with a mixed model of a major gene and polygenes using large complex pedigree
松本省吾(名古屋大), 副 島淳一, 前島勤(長野果 試)	Scientia Horticulturae	137巻 131-137 2012.4	2012.2	Influence of repeated pollination on seed number and fruit shape of 'Fuji' apples
片山寛則(神戸大), 橘美 穂(神戸大), 池谷祐幸, Shao-Ling Zhang (Nanjing Agr. U.), 植松千 代美(大坂市大)	Tree Genetics & Genomes	8巻 313-326 2012.4	2011.11	Phylogenetic utility of structural alterations found in the chloroplast genome of pear: hypervariable regions in a highly conserved genome
竹村圭弘(鳥取大), 黒木 克翁(鳥取大), 松本和浩 (弘前大), 森口卓哉, 中田 昇(鳥取大), 田村文男(鳥 取大)	園芸学研究	11巻2号 181-187 2012.4	2012.4	ニホンナシ系統TH3と少低温要求性タイワンナシ横山のF <sub>1</sub> における自発休眠特性
八重垣英明, 土師岳(生物 研), 末貞佑子, 中村ゆり, 京谷英壽(元果樹研), 西 村幸一(元果樹研), 三宅 正則(山梨果試), 吉田雅 夫(元果樹研), 山口正己 (東京農大)	園芸学研究	11巻2号 195-198 2012.4		ウメにおける緑萼性の遺伝様式
真野隆司(兵庫農水技総 セ), 水田泰徳(兵庫農水 技総セ), 森口卓哉	園芸学研究	11巻2号 219-225 2012.4	2012.4	樹勢の異なるイチジクへの不織布マルチの被覆と灌水が樹体生育に及ぼす影響
中野亮, 井原史雄, 三代 浩二, 外山晶敏	Applied Entomology and Zoology	47巻2号 129-135 2012.1	2012.1	Male courtship ultrasound produced by mesothoracic tymbal organs in the yellow peach moth <i>Conogethes punctiferalis</i> (Lepidoptera: Crambidae)
山本俊哉, 寺上伸吾, 保 坂ふみ子, 藤井浩, 國久 美由紀, 高田教臣, 齋藤 寿広, 西谷千佳子	DNA多型	20巻 58-61 2012.5		4塩基, 5塩基モチーフ SSR マーカーのニホンナシ品種識別への利用

著者名	掲載誌名	巻・号 ページ 発行年	オンラ イン 公表日	論文表題名
田中善久(アサヒビール), 本間大樹(アサヒビール), 柳田顕郎(東京薬大), 庄司俊彦, 渋谷庸一(東京薬大), 田頭素之(アサヒビール), 神田智正(アサヒビール)	Phytochemistry Letters	5巻 514-518 2012.5	2012.5	New chromanone and acylphloroglucinol glycosides from the bracts of hops
八重樫元, 兼松聡子, 伊藤伝	Virus Research	165巻 143-150 2012.5		Molecular characterization of a new hypovirus infecting a phytopathogenic fungus, <i>Valsa ceratosperma</i> .
河野淳, 佐藤明彦, 中野正明, 山田昌彦, 三谷宣仁, 伴雄介	American Journal of Enology and Viticulture	63巻 262-268 2012.6		Evaluating grapevine cultivars for resistance to anthracnose based on lesion number and length
阪本大輔, 中村ゆり, 横山峰幸(資生堂), 伊福欧二(資生堂), 森口卓哉	Scientia Horticulturae	140巻3号 33-38 2012.6	2012.6	Effects of 9-hydroxy-10-oxo-12(Z), 15(Z)-octadecadienoic acid (KODA) on lateralprimordial formation in the apical flower buds of Japanese pear [ <i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm.f.) Nakai]
清水健雄, 伊藤伝, 兼松聡子	Current Genetics	58巻3号 129-138 2012.7		Transient and multivariate system for transformation of a fungal plant pathogen, <i>Rosellinia necatrix</i> , using autonomously replicating vectors
高田教臣, 西尾聡悟, 山田昌彦, 澤村豊, 佐藤明彦, 平林利郎, 齋藤寿広	HortScience	47巻7号 845-847 2012.7		Inheritance of the easy-peeling pellicle trait of Japanese chestnut cultivar porotan
野中圭介, 喜多正幸, 生駒吉識, 深町浩, 今井篤, 吉岡照高, 山田昌彦	Journal of the American Society for Horticultural Science	137巻4号 243-249 2012.7	2012.7	Genetic difference and environmental variations in carotenoid contents of fruit flesh in parental population used in Citrus breeding in Japan
松本大生(京都大), 山根久代(京都大), 阿部和幸, 田尾龍太郎(京都大)	Plant Physiology	159巻 1252-1262 2012.7		Identification of a Skp1-like protein interacting with SFB, the pollen S determinant of the gametophytic self-incompatibility in <i>Prunus</i>
岩崎光徳, 深町浩, 今井篤, 平岡潔志, 奥田均(三重大院)	園芸学研究	11巻3号 327-335 2012.7		ウンシュウミカンと‘不知火’における TDR 計を用いた枝内水分測定法の有用性と水管理方法
真野隆司(兵庫農水技総セ), 水田泰徳(兵庫農水技総セ), 伊東明子, 磯部武志(大阪環農水総研), 細見彰洋(大阪環農水総研), 森口卓哉	園芸学研究	11巻3号 351-356 2012.7	2012.9	主枝高がイチジクの凍害発生に及ぼす影響
國久美由紀, 徳田進一(野茶研), 村上健二(野茶研), 浦上敦子(野茶研), 相澤証子(野茶研), 中野有加(野茶研), 岡田邦彦(野茶研), 東尾久雄(茨城大)	日本食品保蔵科学会誌	38巻4号 201-210 2012.7		キャベツの品質比較試験におけるサンプリング方法, および化成・有機質肥料連用試験での応用

著者名	掲載誌名	巻・号 ページ 発行年	オン ライ ン 公表日	論文表題名
中島育子, 伊東明子, 森谷茂樹, 齋藤寿広, 森口卓哉, 山本俊哉	In Vitro Cellular & Developmental Biology-Plant	48巻 396-402 2012.8	2012.8	Adventitious shoot regeneration in cotyledons from Japanese pear and related species
澤島拓夫, 中村仁, 岡田浩明(農環研), 佐々木厚子, 兼松聡子	Nematology	14巻2号 159-164 2012.8	2012.1	Nonlethal ectoparasitism of the mycophagous nematode <i>Filenchus discrepans</i> (Nematoda: Tylenchidae)
井上広光, 口木文孝(佐賀果試), 井手洋一(佐賀果試), 三島重治(門司植防)	日本応用動物昆虫学会誌	56巻 111-113 2012.8	2012.8	日本での発生が初めて確認されたチュウゴクナシキジラミ <i>Cacopsylla chinensis</i> (Yang & Li)
松本光, 生駒吉識	Journal of Agricultural and Food Chemistry	60巻39号 9900-9909 2012.9	2012.9	Effect of different postharvest temperatures on the accumulation of sugars, organic acids, and amino acids in the juice sacs of satsuma mandarin ( <i>Citrus unshiu</i> Marc.) Fruit
西尾聡悟, Seedahmed Mohammed (東北大院), 高橋秀幸(東北大院), 白武勝裕(名古屋大院), 池田裕樹(東北大院), 金濱耕基(東北大院), 金山喜則(東北大院)	Journal of Experimental Botany	63巻15号 5613-5621 2012.9		Role of vacuolar H <sup>+</sup> -inorganic pyrophosphatase in tomato fruit development
今井剛, 伴雄介, 山本俊哉, 森口卓哉	Plant Cell, Tissue and Organ Culture	111巻1号 1-13 2012.9	2012.4	Ectopic overexpression of peach GDP-D-mannose pyrophosphorylase and GDP-D-mannose-3',5'-epimerase in transgenic tobacco.
島田武彦, 遠藤朋子, Ana Rodriguez(IVIA), 藤井浩, 中野道治, 杉山愛子, 清水徳朗, Leandro Peña(IVIA), 大村三男(静岡大学)	Scientia Horticulturae	145巻 102-108 2012.9		Isolation and characterization of germacrene A synthases gene in <i>Citrus unshiu</i> Marc
伊東明子, 阪本大輔, 森口卓哉	Scientia Horticulturae	144巻 187-194 2012.7	2012.7	Carbohydrate metabolism and its possible roles in endodormancy transition in Japanese pear
土師岳(生物研), 山口正己(東京農大), 八重垣英明, 末貞佑子, 京谷英壽(元果樹研), 西村幸一(元果樹研), 鈴木勝征(元果樹研), 三宅正則(山梨果試), 小園照雄(元果樹研), 木原武士(元果樹研), 福田博之(元果樹研), 内田誠(元果樹研)	果樹研究所研究報告	14巻 1-9 2012.9		モモ新品種‘つきあかり’

著者名	掲載誌名	巻・号 ページ 発行年	オンラ イン 公表日	論文表題名
副島淳一, 別所英男, 吉田義雄(退職), 羽生田忠敬(退職), 増田哲男(果種協), 小森貞男(岩手大), 土屋七郎(退職), 伊藤祐司, 真田哲朗(退職), 阿部和幸, 古藤田信博, 檜村芳記, 加藤秀憲	果樹研究所研究報告	14巻 11-24 2012.9		リンゴ新品種‘こうたろう’
山田昌彦, 佐藤明彦, 山根弘康(元果樹研), 三谷宣仁, 岩波宏, 白石美樹夫(福岡農総試), 平川信之(福岡県), 上野俊人(山梨果試), 河野淳, 吉岡美加乃(元果樹研), 中島育子	果樹研究所研究報告	14巻 25-38 2012.9		カキ新品種‘太月’
東暁史, 伊東明子, 森口卓哉, 薬師寺博, 小林省藏	Acta Horticulturae	956巻 341-347 2012.10		Light emitting diode irradiation at night accelerates anthocyanin accumulation in grape skin
Kenta Yamamoto(中村学園大), Ayumi Yahada(中村学園大), Kumi Sasaki(中村学園大), 小川一紀, Nobuyuki Koga(中村学園大), Hideaki Ohta(中村学園大)	Journal of Agricultural and Food Chemistry	60巻44号 11182-11187 2012.10	2012.1	Chemical markers of Shiikuwasha juice adulterated with Calamondin juice
土田靖久(和歌山果試), 吉原利一(電力中研), 薬師寺博, 城村徳明(和歌山果試), 中西慶(和歌山果試), 岡室美絵子(和歌山果試), 後藤文之(電力中研)	Journal of the Japanese Society for Horticultural Science	81巻4号 332-336 2012.10		Dynamism in reserve carbohydrates until the following growth season in Japanese apricot 'Nanko' tree
森谷茂樹, 岡田和馬, 土師岳, 山本俊哉, 阿部和幸	Plant Breeding	131巻 641-647 2012.5	2012.5	Fine mapping of Co, a gene controlling columnar growth habit located on apple ( <i>Malus × domestica</i> Borkh.) linkage group 10
PMF Le Roux, Danilo Christen, Brion Duffy, Stefano Tartarini, Luca Dondini, 山本俊哉, 西谷千佳子, 寺上伸吾, Yves Lespinasse, Markus Kellerhals, Andrea Patocchi	Plant Breeding	131巻 656-664 2012.10		Redefinition of the map position and validation of a major quantitative trait locus for fire blight resistance of the pear cultivar ‘Harrow Sweet’ ( <i>Pyrus communis</i> L.)
東暁史, 薬師寺博, 児下佳子, 小林省藏	Planta	236巻 4号 1067-1080 2012.10	2012.5	Flavonoid biosynthesis-related genes in grape skin are differentially regulated by temperature and light conditions

著者名	掲載誌名	巻・号 ページ 発行年	オン ライ ン 公表日	論文表題名
Satoru Kondo(千葉大), Hiroyuki Tomiyama(千 葉大), Monrudee Kittikorna(千葉大), Katsuya Okawa(千葉大), Hitoshi Ohara(千葉大), Mineyuki Yokoyama(資 生堂), Ohji Ifuku(資生 堂), Takanori Saito(筑波 大), 伴雄介, 立木美保, 森 口卓哉, Ariaki Murata(静岡大), Naoharu Watanabe(静岡 大)	Postharvest Biology and Technology	72巻 20-26 2012.10	2012.9	Ethylene production and 1-aminocyclopropane-1-carboxylate (ACC) synthase and ACC oxidase gene expressions in apple fruit are affected by 9,10-ketol-octadecadienoic acid (KODA)
岩波宏, 守谷友紀, 本多 親子, 和田雅人, 森谷茂 樹, 岡田和馬, 土師岳, 阿 部和幸	Scientia Horticulturae	146巻 39-44 2012.10	2012.7	Relationships among apple fruit abscission, source strength, and cultivar
山本俊哉, 寺上伸吾, 滋 田徳美, 西谷千佳子, 西 尾聡悟, 齋藤寿広, 藤井 浩	DNA鑑定	4巻 29-38 2012.11		クリ果実および加工品のDNA分析
池谷祐幸, 片山寛則(神戸 大), 植松千代美(大阪市 大), 間瀬誠子, 佐藤義彦, 山本俊哉	Plant Systematics and Evolution	298巻 1689- 1700 2012.11		Genetic structure of East Asian cultivated pears ( <i>Pyrus</i> spp.) and their reclassification in accordance with the nomenclature of cultivated plants
西谷千佳子, 齋藤隆徳(筑 波大), Benjamin Ewa Ubi, 清水徳朗, 板井章浩 (鳥取大), 齋藤寿広, 山本 俊哉, 森口卓哉	Scientia Horticulturae	147巻 49-55 2012.11		Transcriptome analysis of <i>Pyrus pyrifolia</i> leaf buds during transition from endodormancy to ecodormancy
正田守幸(沖縄農研セ), 浦崎直也(沖縄農研セ), 崎山澄寿(沖縄農研セ), 寺上伸吾, 保坂ふみ子, 滋田徳美, 西谷千佳子, 山本俊哉	Breeding Science	62巻4号 352-359 2012.12		DNA profiling of pineapple cultivars in Japan discriminated by SSR markers
井上博道, 梅宮善章(元果 樹研), 草場新之助, 杉浦 裕義	日本土壤肥科学 雑誌	83巻6号 687-690 2012.12		有機物長期連用ブドウ園地の土壤中全炭素濃度と全窒素濃度の経年変化
井上博道, 梅宮善章(元果 樹研), 弦間洋(筑波大院), 関達哉(神奈川農技セ), 柴田健一郎(神奈川農技 セ)	日本土壤肥科学 雑誌	83巻6号 658-663 012.12		ニホンナシの樹体ジョイント仕立てにおける樹体間の窒素移行
新井朋徳, 高梨祐明, 井 原史雄, 柳沼勝彦	北日本病害虫研 究会報	63巻 2012.12		岩手県盛岡市の交信攪乱剤設置リンゴ園におけるモモシクイガの被害と補完防除の効果
新井朋徳, 高梨祐明, 井 原史雄, 柳沼勝彦	北日本病害虫研 究会報	63巻 2012.12		複合交信攪乱剤設置リンゴ園におけるチョウ目害虫の果実加害時期と防除適期



著者名	掲載誌名	巻・号 ページ 発行年	オンラ イン 公表日	論文表題名
伊藤隆男, 中畝良二, 中野正明, 須崎浩一	Archives of Virology	158巻 273-275 2013.1	2012.8.	Novel variants of grapevine leafroll-associated virus 4 and 7 detected from a grapevine showing leafroll symptoms
八重樫元, 中村仁, 澤畠拓夫, 佐々木厚子, 岩波靖彦(長野南信農試), 伊藤伝, 兼松聡子	FEMS Microbiology Ecology	83巻 49-62 2013.1		Appearance of mycovirus-like double-stranded RNAs in the white root rot fungus, <i>Rosellinia necatrix</i> , in an apple orchard.
太田智, 矢野加奈子, 栗田恭伸(愛知農試), 喜多正幸, 清水徳朗, 根角博久	Journal of the Japanese Society for Horticultural Science	82巻1号 14-21 2013.1		A Sample preparation method for direct and non-Direct PCR in woody plants
薬師寺博, 山崎安津, 東暁史, 杉浦裕義	園芸学研究	12巻1号 51-56 2013.1		花冠取り器によるブドウ‘サンヴェルデ’のさび果軽減効果
片山(池上)礼子(石川県立大), 米森敬三(京都大), 佐藤明彦, 山田昌彦, 羽生剛(京都大), 北島宜(京都大)	園芸学研究	12巻1号 29-34 2013.1		中国原産の完全甘ガキ後代における甘渋性と果形との関連性
藤井浩, 島田武彦, 野中圭介, 喜多正幸, 國賀武, 遠藤朋子, 生駒吉識, 大村三男(静岡大)	Tree Genetics & Genomes	9号 145-153 2013.2	2012.7	High-throughput genotyping in citrus accessions using an SNP genotyping array
岸本英成, 望月雅俊, 北野峻伸(愛媛大)	日本応用動物昆虫学会誌	57巻 2013.2		日本国内におけるハダニクロヒメテントウ(新称) <i>Stethorus pusillus</i> (Herbst) の再発見およびキアシクロヒメテントウ <i>Stethorus japonicus</i> H. Kamiya との区別点
八重垣英明, 山口正己(東京農大), 土師岳(生物研), 末貞佑子, 安達栄介(山形農総研七), 鈴木勝征(元果樹研), 内田誠(元果樹研)	果樹研究所研究報告	15巻 2013.3		ウメ 第2回系統適応性検定試験の概要
西川英美恵, 岩崎光徳, 深町浩, 遠藤朋子	果樹研究所研究報告	15巻 2013.3		Leaf removal suppresses citrus FLOWERING LOCUS T expression in satsuma mandarin
Ting Peng(華中農業大), Takanori Saito(筑波大), 本多親子, 伴雄介, Satoru Kondo(千葉大), Ji-Hong Liu(華中農業大), Yosimichi Hatsuyama(青森産技七弘前地域研), 森口卓哉/CA	Physiologia Plantarum	印刷中 2013	2012.11	Screening of UV-B-induced genes from apple peels by SSH: possible involvement of MdCOP1-mediated signaling cascade genes in anthocyanin accumulation
藤井浩, 緒方達志(国際農研), 島田武彦, 遠藤朋子, 池谷祐幸, 清水徳朗, 山本俊哉, 大村三男(静岡大)	Journal of Bioinformatics and Computational Biology	印刷中 2013	2012.11	Minimal Marker: an algorithm and computer program for the identification of minimal sets of discriminating DNA markers for efficient variety identification

著者名	掲載誌名	巻・号 ページ 発行年	オン ライ ン 公表日	論文表題名
中野亮, Ryoko Nakagawa(理研), Naoko Tokimoto(理研), Kazuo Okanoya(理研)	Journal of Ethology	印刷中 2013	2012.12	Alarm call discrimination in a social rodent: adult but not juvenile degu calls induce high vigilance
深谷緑(京大院農), 上杉 龍士(京大院農), 大橋弘 和(和歌山果試), 酒居勇 太(京大院農), 笠井敦(京 大院農), 岸本英成, 刑部 正博(京大院農)	Photochemistry and Photobiology	印刷中 2013	2012.11	Tolerance to solar ultraviolet-B radiation in the citrus red mite, an upper surface user of host plant leaves
西尾聡悟, 高田教臣, 山 本俊哉, 寺上伸吾, 林武 司, 澤村豊, 齋藤寿広	Tree Genetics & Genomes	印刷中 2013	2013.1	Mapping and pedigree analysis of the gene that controls the easy peel pellicle trait in Japanese chestnut ( <i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.)